

# 中二エス

シネスコ版

高新ニコース No. 234  
新愛媛ニコース No. 406

No. 571

39. 12. 25

## 一、一九六四年の歩み

### 吹きまくった不況のカゼ

「高度経済のヒズミ是正に、今度こそメスを入れる」とスタートした池田三選内閣。巷は所得倍増どころか、物価倍増が先行して不満がつるばかり。株価も相変らず低迷を続け兜町は閑古鳥が鳴く始末。こうした不安の世相が血液銀行にも反映して、「黄色い血」の恐怖が取沙汰された。六月十六日午後一時すぎ、裏日本一帯を襲った「新潟地震」。天災に対する無防備は大きく問題化した。

何処かが狂っていた一九六四年。株に変わった空前の切手ブーム。「ヤア、ヤア、ヤア」のビートルズに酔いしれる若者達は不景気なぞ、何処吹くカゼ。全て不安の世相である。この暗雲たちこめた中にポッカリ照った「義宮様のご結婚」。胸暖まるニュースだった。

そして、日本が国運をかけたオリンピック東京大会は、傷深い疾病を覆い、高速道路、新幹線、競技場と大急ぎで繕った。

十月十日「世紀の祭典」は賑々しく開幕した。重量あげ、レスリング、体操、バレエボールと勝った。だが陸上、水上、は惨敗。宿敵ヘーシングにまたも敗れたお家芸柔道。そもそもお家芸とは……

こうして、平和と友愛を置土産に熱戦は終了した。だが終わってみれば、国民の前には何か虚しい空洞がポッカリあいていた。そこには不況きびしい風が吹きまくっていたのだ。

そして経済のことは全てお委せしたはずの池田首相は病で退陣。オリンピックに湧いている間に経済構造の痛は大きく腫れあがっていた。「倒産」それは先づ下請企業から始まった。十一月だけでも五二〇件の企業倒産。そして大手企業へもその波は打ち寄せた。そこには責めの針先さえ知らず悲嘆にくれる人達があった。

池田退陣の後がまはかって池田経済政策を痛烈に批判した佐藤栄作氏が座った。だが風の吹きまわしで、池田路線踏襲と相成った。「人間尊重、社会開発」を掲げての後始末はくる年一九六九年に持ち越された。それにしても一九六四年はオリンピックと不況がはつきりとした明暗で浮き彫りにされた狂った年だったようだ。

628F

（製作） 中部日本新聞 東京中日新聞  
（配給） 北陸中日新聞 中日映画社  
中部日本ニコース映画社